

川根高校野球部

46年ぶりにシード権獲得

川根留学生含む18人が団結

第71回春季高校野球県大会が4月20日（土）に掛川球場で開催されました。川根高校は星陵高校と対戦し、延長十二回タイブレークを制し、46年ぶりに夏のシード権を獲得しました。

試合は星陵が初回に先制しましたが、その後は一進一退の攻防が続き、川根が1点を追いかける八回裏、ヒロキ選手がタイムリーヒットを放ちシード権獲得の立役者となりました。また、続く延長でも、2点を奪い合う接戦が続きましたが、迎えた十二回裏、川根が逆転サヨナラ勝ちを収めました。

川根高校野球部のメンバーは、その大半が県内各地の中学校から来た「川根留学生」により構成されており、寮での集団生活を通して日々切磋琢磨しながら練習に励んでいます。集団生活だからこそ得られる団結力とひたむきに努力し続ける個々の意識が奏功し、46年ぶりにシード権を得る快挙を成し遂げました。



1_ティーバッティングでフォームづくり。2_ノックで連携プレーを確認。3_校舎周りの坂道で走り込みをし下半身を強くする。

46年前の記憶 ～当時の川根高校野球部～

前回シード校だった第60回静岡大会で、川根高校は8強まで進みました。当時は川根高校に野球部ができて3年目、グラウンドはローラーで固めただけで石が転がっているような環境だったため、とても野球ができる状況ではありませんでした。そのため、自分たちで石を拾い土をふるいにかけ、グラウンドづくりから始めました。また照明も無かったため、明るい時間帯でのバッティングやノック中心の練習でした。

当時の川根高校野球部はピッチャー中心の守りのチームでした。3年春の県大会では、エースが相手打線を抑え、川根打線が終盤の好機を生かして勝ち進み夏のシード権を獲得しました。

現在の川根高校野球部は町外出身者が多く、親元を離れ寮生活をしながら野球に打ち込むのは大変なことです。今回のシード権獲得も、日頃から努力を積み重ねてきた結果であり、とても立派に思います。



8強入りした46年前のメンバー 松下 和之さん（瀬平区）

団結力が強いチームだからこそ、1点を確実に取れる試合を

川根高校野球部のメンバーは、町外出身者が多く、親元を離れ寮での共同生活をしています。学校生活からプライベートまでの生活を共に過ごすことで、個々の部員がお互いを理解、尊重し合い、団結力の強いチームとなっています。

主将としてチームをまとめていく中で、時には部員と意見が合わないこともあり、どうしたら部員がついてきてくれるか悩むこともありました。そんなときは自分が率

先して発言しリーダーシップをとることが大切だと思い練習を続けてきました。

相手は自分たちよりも強いチームですが、その中でもチームの団結力と持ち味を活かし、一点一点を確実に取れる試合をしていきます。



3年 主将 真鍋 彰汰さん（藤枝市）

第106回全国高等学校野球選手権静岡大会



1_試合の合間に円陣を組み気合いを入れる選手。2_六回表に1点を返すと、観客席からは大歓声が上がった。3_粘り強く奮闘したが好機をものにできず試合終了を迎えました。

全力で立ち向かった夏の大会

第106回全国高等学校野球選手権静岡大会が7月6日（土）に開幕し、川根高校は、7月13日（土）に島田球場で聖隷クリストファー高校と対戦しました。

川根高校は、二回裏に先制を許し、四回裏には2点を追加される苦しい試合展開でしたが、粘り強く戦いました。そして、六回表に2アウト1・2塁の好機を作り、安藤選手のタイムリーヒットで1点を返すと、川根高校応援席は大いに沸きました。

しかし、六回裏、続く七回裏に追加点を奪われ試合終了。46年ぶりにシード校として臨んだ大会を終えました。

試合を終え、真鍋主将は「序盤は相手のピッチャーに苦戦し、自分たちのバントや強みを活かし切れませんでした。後半になり少しずつ良くなりました。試合は負けてしまいましたが、皆様の応援もあり、自分たちの精一杯を出し切ることができました。ありがとうございました」と話しました。